

A市B町スマレ地区の概況と保健師の思いシート

あなたの名前は、^{あらたな}新田菜 ^{いっぽ} 一歩。A市健康福祉課の保健師になって2年目です。先輩保健師の指導を受けながら、A市の地区特性と活動の全体像がみえてきたところです。A市は地区担当制をとっており、あなたはB町スマレ地区を担当しています。

【A市B町の概要】

- ・B町は、地方都市A市のベッドタウンとして発展してきた町。
- ・1965年頃より地域開発を町政の重要課題に位置づけ、用地造成を進めてきた結果人口が急増した。
- ・現在（2007年）のA市B町の人口は18,142人、高齢化率23.8%、人口減少と高齢化が進んでいる。
- ・B町のある小学校区は3つの地区（スマレ地区・リンドウ地区・レンゲ地区）で構成されている。
- ・スマレ地区とリンドウ地区は丘陵地にあり、戸建て団地が1自治会を形成している。
- ・最初に造成されたリンドウ地区の高齢化率が最も高く、34.8%である。最近、独居高齢者の孤立死が発生している。

【スマレ地区の概要】

- ・あなたが担当しているスマレ地区は、134世帯、人口335人、高齢化率23.3%であり、地区の近辺に店や病院はない。
- ・最寄り駅は、急な坂道を15分くらい降りたところにある。

【保健師の思い】

- ・あなたは、最近リンドウ地区で孤立死が発生したことに驚いた。リンドウ地区のほうが高齢化率が高いが、スマレ地区でもいずれ同じようなことが起きるのではないかと不安になってきた。
- ・先輩保健師に不安な気持ちを伝えたところ、先輩保健師から「スマレ地区は今どんな状況なの？」「不安な気持ちはわかるけど、もう少しスマレ地区のことを知ることからはじめたほうがいいんじゃないかなあ」とアドバイスもらった。
- ・あなたは、地区を担当しているといっても、これまで自治会長さんに挨拶に行ったのと、がん検診の事後指導で訪問したくらいで、地域のことや住民の様子をしっかりとらえていないことに気づいた。
- ・地区のことを知るために、まずは地域診断方法のひとつであるキーインフォーマントへのインタビューを行う必要があると考えた。
- ・地域のキーインフォーマントはだれか、先輩に相談しながら4人を選定した。
 - ①高齢者宅を多数訪問しているヘルパー
 - ②B町の健康推進員
 - ③スマレ地区の自治会長
 - ④まちづくり課に所属したことがある健康福祉課長